

083 五千人のパンの奇跡(食べ物を与える)

マルコによる福音書 6 : 30~44、マタイ 14 : 13~21、ルカ 9 : 10~17、ヨハネ 6 : 1~15

▶五千人に食べ物を与える(マルコによる福音書 6 : 30~44)

30 さて、(十二人の)使徒たちは(伝道旅行から戻り)イエスのところ(→①カファルナウム)に集まって来て、自分たちが①行ったことや②教えたことを残らず報告した。

⋮

③場所は、カファルナウムからベトサイダに移る。

⋮

31 イエスは、「**さあ、あなたがただけで人里離れた所へ行って、しばらく休むがよい**」と言われた。出入りする人が多くて、食事をする暇もなかったからである。(ユダヤ人の祭りである過越祭が近づいていた。)

32 そこで、一同は舟に乗って、自分たちだけで(密かに)人里離れた所(ベトサイダ)へ行った。

→現代人だけでなく、イエスもその弟子たちも忙しい時間を過ごしていました。そんな中、イエスや弟子たちは、人里離れた所(寂しい所/a solitary place/a remote place/a quiet place/lonely places)で休息を取られ、祈られた様子などが聖書の随所に出てきます。→【参考】

→ルカによる福音書 9 : 10

使徒たちは帰って来て、自分たちの行ったことをみなイエスに告げた。イエスは彼ら連れ、自分たちだけで(カファルナウムから)④ベトサイダ Bethsaida (=ベツサイザ・ユリアス) という町に退かれた。



33 ところが、多くの人々は彼らが出かけて行くのを見て、それと気づき、すべての町からそこ(ベトサイダ)へ一斉に駆けつけ、彼らより先に着いた。34 イエスは舟から上がり、大勢の群衆を見て、飼いのない羊のような有様を深く憐れみ、いろいろと教え始められた。

→深く憐れみ: スプランクニゾマイ(ギリシア語) = はらわた(スプランクノン、スプランクナ)が痛くなる、突き動かされる、引き絞られる。→参考: 079 三度目のガリラヤ伝道(1)

35 そのうち、時もだいぶただったので、弟子たちがイエスのそばに来て言った。

「ここ(ベトサイダ)は人里離れた所で、時間もだいぶたちました(→ユダヤ的には午後三時頃→まだ明るく日没までに時間があるが、食事の準備をするのに時間を要するため)」。36 人々を解散させてください。そうすれば、自分で周りの里や村へ、何か食べる物を買って行くでしょう。」

→ヨハネによる福音書 6 : 5~7

イエスは目を上げ、大勢の群衆が御自分の方へ来るのを見て、フィリポに、「この人たちに食べさせるには、どこでパンを買えばよいだろうか」と言われたが、こう言ったのはフィリポを試みるためであって、御自分では何をしようとしているか知っておられたのである。フィリポは、「めいめいが少しずつ食べるためにも、二百デナリオン分のパンでは足りないでしょう」と答えた。

37 これに対してイエスは、「**あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい**」とお答えになった。

弟子たちは、「わたしたちが二百デナリオン(=200日分の給料)ものパンを買って来て、みんなに食べさせるのですか」と言った。

38 イエスは言われた。「**パンは幾つあるのか。見て来なさい。**」

弟子たちは確かめて来て、言った。「**五つあります。それに魚が二匹です。**」

→ヨハネによる福音書 6 : 8~9

弟子の一人で、シモン・ペトロの兄弟アンデレが、イエスに言った。「ここに大麦のパン五つと魚二匹とを持っている少年がいます。けれども、こんなに大勢の人では、何の役にも立たないでしょう。」

39 そこで、イエスは弟子たちに、皆を組に分けて、(春で芽吹いた緑の) 青草の上に (on the green grass) 座らせるようにお命じになった。40 人々は、百人、五十人ずつまとまって腰を下ろした。

→ギリシア語では、「百人、五十人ずつまとまって腰を下ろした」は、「**プラシアイ**列、**プラシアイ**」という「列を作って座った」という意味の非常に絵画的な言葉が使われている。つまり、人々が着ている服の色が様々で列になった花壇のように見えたという意味を含んでいる。



41 イエスは五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで賛美の祈りを唱え、パンを裂いて、弟子たちに渡しては配らせ、二匹の魚も皆に分配された。

42 すべての人が食べて満腹した。43 そして、パンの屑と魚の残りを集めると、**十二の籠**(回復訳：十二の手かご、NIV：twelve basketfuls→ギリシア語で「**コプリノス**」：小さなかご) にいっぱいになった。

44 パンを食べた人は男が五千人であった。

→四千人に食べ物を与える (マタイ 15：37)

人々は皆、食べて満腹した。残ったパンの屑を集めると、**七つの籠**(回復訳：七つのかご、NIV：seven basketfuls→ギリシア語で「**スプリス**」：大きいかご) いっぱいになった。

▶五千人に食べ物を与える (ヨハネによる福音書 6：1～15)

01 その後、イエスはガリラヤ湖、すなわちティベリアス湖の向こう岸 (ベトサイダ) に渡られた。02 大勢の群衆が後を追った。イエスが病人たちになさったしるしを見たからである。03 イエスは山に登り、弟子たちと一緒にそこにお座りになった。04 **ユダヤ人の祭りである過越祭**が近づいていた。

太陽暦・ユダヤ暦・バビロニア暦

太陽暦	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月 (ヘブライ暦)	第一の月	第二の月	第三の月	第四の月	第五の月	第六の月	第七の月	第八の月	第九の月	第十の月	第十一の月	第十二の月	
ユダヤ暦	ニサン Nisan, Nissan	イヤール Iyyar	シバン Sivan, Sivan	タムーズ Tammuz	アブ Abh, Av	エルール Elul	ティシュリ Tishri	マルヘ シユバン Marcheswan	キスレーフ Kislev, Kislev	テベット T'ebheth	シユバット Sabbat	アダール Adhar, Adar	
バビロニアの月名 (): カナンの古称	ニサン (アビブ)	イヤール (ジウ)	シワン	タンムズ	アブ	エルル	ティシュリ (エタニム)	ヘシュワン (ブル)	キスレウ	テベト	シェバト	アダール	
主な行事	七週間		七週祭 (シャブオット) II 五旬祭 (ペンテコステ Pentecoste ギリシア語)				I: 新年 10: 大贖罪日 15~21: 仮庵祭 (スコット)		25: 宮清めの祭 (25日~8日間)				
	14~21 過越祭 (ベサハ) 除酵祭		※ユダヤの三大祭: 過越祭、七週祭、仮庵祭										

- ・ユダヤ暦は、日本の旧暦と同じく、月の満ち欠けを基準に月を決める方式 (太陰太陽暦) です。
- ・ユダヤ暦は、一日が日没 (夕方) に始まり、次の日の日没 (夕方) に終わります。それは、聖書の創造の記事に「夕べがあり、朝があった」(創世記 1：5他) と記されているからです。
- ・イスラエルでは普段の生活には、西暦も使っていますが、ユダヤ教の祝祭日や公式行事はユダヤ暦によって決められています。
- ・ユダヤ暦は天地創造を起点にして数えることになっており、西暦+3760年 (西暦よりも3760年長い) となる。

05 イエスは目を上げ、大勢の群衆が御自分の方へ来るのを見て、フィリポに、「**この人たちに食べさせるには、どこでパンを買えばよいだろうか**」と言われたが、06 こう言ったのはフィリポを試みるためであって、御自分では何をしようとしているか知っておられたのである。フィリポは、「**めいめいが少しずつ食べるためにも、二百デナリオン分のパンでは足りないでしょう**」と答えた。08 弟子の一人で、シモン・ペトロの兄弟アンデレが、イエスに言った。09「**ここに大麦のパン五つと魚二匹とを持っている少年がいます。けれども、こんなに大勢の人では、何の役にも立たないでしょう。**」

10 イエスは、「**人々を座らせなさい**」と言われた。そこには草がたくさん生えていた。男たちはそこに座ったが、その数はおおよそ五千人であった。11 さて、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えてから、座っている人々に分け与えられた。また、魚も同じようにして、欲しいだけ分け与えられた。

12 人々が満腹したとき、イエスは弟子たちに、「**少しも無駄にならないように、残ったパンの屑を集めなさい**」と言われた。13 集めると、人々が五つの大麦パンを食べて、なお残ったパンの屑で、十二の籠がいっぱいになった。

14 そこで、人々はイエスのなさったしるしを見て、「まさにこの人こそ、世に来られる預言者である」と言った。

15 イエスは、人々が来て、自分を王にするために（無理やり）連れて行こうとしているのを知り、ひとりでまた山に退かれた。

→イエスは、彼らがやって来て、ご自分を無理やり捕らえて王にしようとするのを知り、ただ一人、再び山に退かれた。

【参考】 人里離れた所

現代人だけでなく、イエスもその弟子たちも忙しい時間を過ごしていました。そんな中、イエスや弟子たちは、人里離れた所（寂しい所／a solitary place／a remote place／a quiet place／lonely places）で休息を取られ、祈られた様子などが聖書の随所に出てきます。

神からの真理や預言は、人里離れて沈黙の誓いのなかに人生を送る隠者にこそもたされるという、初代教会の伝統があるのではないのでしょうか。 ～生きるヒント P.114 五木寛之～

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 11 / 聖句等の総数 33250 (人里離れた所)11個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: 人里離れた所]
S マタイによる福音書	14:13 イエスはこれを聞くと、舟に乗ってそこを去り、ひとり人里離れた所に退かれた。しかし、群衆はそのことを聞き、方々の町から歩いて後を追った。 <i>privately to a solitary place</i>	
S マタイによる福音書	14:15 夕暮れになったので、弟子たちがイエスのそばに来て言った。「ここは人里離れた所で、もう時間もたちました。群衆を解散させてください。そうすれば、自分で村へ食べ物を買に行くでしょう。」 <i>This is a remote place,</i>	
S マタイによる福音書	15:33 弟子たちは言った。「この人里離れた所で、これほど大勢の人に十分食べさせるほどのパンが、どこから手に入るでしょうか。」 <i>in this remote place</i>	
S マルコによる福音書	1:35 朝早くまだ暗いうちに、イエスは起きて、人里離れた所へ出て行き、そこで祈っておられた。 <i>a solitary place</i>	
S マルコによる福音書	6:31 イエスは、「さあ、あなたがただけで人里離れた所へ行って、しばらく休むがよい」と言われた。出入りする人が多くて、食事をする暇もなかったからである。 <i>"Come with me by yourselves to a quiet place and get some rest."</i>	
S マルコによる福音書	6:32 そこで、一同は舟に乗って、自分たちだけで人里離れた所へ行った。 <i>a solitary place</i>	
S マルコによる福音書	6:35 そのうち、時もだいぶたったので、弟子たちがイエスのそばに来て言った。「ここは人里離れた所で、時間もだいぶたちました。」 <i>a remote place</i>	
S マルコによる福音書	8:4 弟子たちは答えた。「こんな人里離れた所で、いったいどこからパンを手に入れて、これだけの人に十分食べさせることができるでしょうか。」 <i>in this remote place</i>	
S ルカによる福音書	4:42 朝になると、イエスは人里離れた所へ出て行かれた。群衆はイエスを捜し回ってそのそばまで来ると、自分たちから離れて行かないようにと、しきりに引き止めた。 <i>a solitary place</i>	
S ルカによる福音書	5:16 だが、イエスは人里離れた所に退いて祈っておられた。 <i>lonely places</i>	
S ルカによる福音書	9:12 日が傾きかけたので、十二人はそばに来てイエスに言った。「群衆を解散させてください。そうすれば、周りの村や里へ行って宿をとり、食べ物を見つけるでしょう。わたしたちはこんな人里離れた所にいるのです。」 <i>in a remote place</i>	

※聖書協会共同訳では、下記のように記されている。

① 人里離れた所：マタイによる福音書 15：33、マルコによる福音書 8：4

② 寂しい所：マタイによる福音書 15：33、マルコによる福音書 8：4 以外の聖句